

夢中政談

全

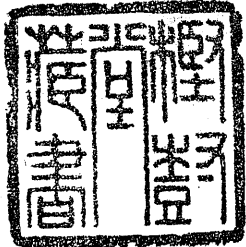
C3131

3

大川家

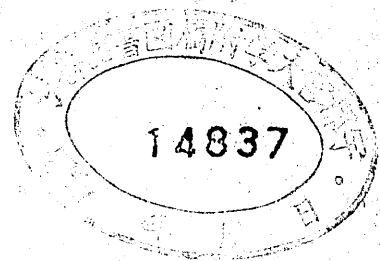
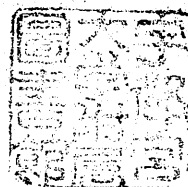
157

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8



夢中政談序

周礼曰占夢掌其歲時觀天地之會辨陰陽之氣以日月星辰占六夢之吉凶一曰正夢二曰噩夢三曰覺夢四曰寤夢五曰喜夢六曰懼夢季冬臘王夢戲吉夢于王王拜而受之乃舍萌于四方以贈惡夢令始難毆疫聖人之視微兆察未然為民除害可以觀焉予嘗信平河神廟也久矣頃日有所祈而奉願書于廟前通夜七日于茲今曉假寐也神正衣冠儼然立枕上予驚立拜伏乃神告予曰察汝之願書則憂社稷民人也深矣書中雖不見其語也其意既見于言外也是則國家大臣之憂而非汝輩之憂也非其位不謀其政孔子之戒也汝不知之乎予拜伏恐懼而不對周身自



汗潤衣焉、神完尔笑曰、勿敢怖也、是亦處士之志也、在昔處士姪小女而憂其国之憂、唐劉賁匹夫而諫天子、則非無其例也、然汝不文、久不能通一經、武不能達一術、何以可得憂社稷民人乎、可謂不知分限也、而吾察汝之志、則非貪榮名、非求祿位、惟赤心在欲報國恩、濟民人而已、吾憐其愚誠、而授一策、深秘以可待時也、夫天運循環、莫往不復、不遠而賢人可在位、而正朝綱、濟黎民也、當此時也、英雄之士、皆可得志矣、汝之不肖、亦可得為其民道之將行也、命道之將廢也、與命也、命則吾不知也、欽哉、勿泄也、神忽然行矣、予夢覺而猶醉、敬而記夢中所授之語、命曰夢中政談、深秘園中而待時云、

天明丙午秋八月念五







[illegible]

張侯富省

古今の諸侯、東都の諸侯、東都の

郎と存候に、此御長も又是の信候にて主候たりと云其  
 ち化と歎て家存より存に召し、此地の事と書拂ひ、  
 一々万事と書廻し、春に別度形に、本年に  
 書後郎と云し、の書も、  
 此候の事と所人、  
 の事、  
 陰の金具、  
 つ、  
 ぬ、  
 入、  
 是、  
 並、





任かり物々々々あるのまゝに善後の修る乳汁と  
修り乳母と云々是と表しむ修福と云々乳汁は  
乳母非難し自ら修りあり乳と云々云々云々皆  
いふ之又にはあつて客行り戒まんわくは又妻の善後  
言へば其の子産む之暇も一ツは主人の御座り  
かしき事候ゆゑ要らざるを信せん何れ

諸侯之子

法侯の世子は七才に及ぶ婦人の子とて形一傳及  
英名臣の長と稱す其意亦無と云くく之を十才  
位より儒者と稱して則ち之を經とて漢せり  
つて退屈せられし儒林宗漢ともいふを又毎一事  
に室に於て一隣に席を安んずるを教へしむ















[illegible][illegible]

宮室

又宮室も旅のするところにして割成あつての所なり。此れ  
 今人唐土紀元と好て宮室なるを越へ御成すも  
 唐土は古く大なる所なり。此れ遠近より事なり。此れを  
 南甘の解し。今や又大なる所なり。此れを越へ  
 一切の物と云はる。此れを越へ人となす。此れを越へ







因自由と云ふは又親類朋友の力も多しと雖も之を  
く新婦より云ふ形に似て然るも其人多しと云ふ  
故に之を多しと云ふは其の意を今言ふ止むは其  
又此法と云ふは其の意を今言ふ止むは其  
天下の通宝なり其の意を今言ふ止むは其  
て其立碑の意を今言ふ止むは其  
小近年の世目益々多し其の意を今言ふ止むは其  
難く其の意を今言ふ止むは其  
上は其の意を今言ふ止むは其  
其の意を今言ふ止むは其  
代の立碑の意を今言ふ止むは其  
と云ふは其の意を今言ふ止むは其

おと後述して後述して云々事なりと雖も之  
何れも其の意を今言ふ止むは其  
おの地中へ其の意を今言ふ止むは其  
おの地中へ其の意を今言ふ止むは其  
おの地中へ其の意を今言ふ止むは其  
おの地中へ其の意を今言ふ止むは其  
おの地中へ其の意を今言ふ止むは其  
おの地中へ其の意を今言ふ止むは其

別言跋事

古者虚葬の儀故と云ふは其の意を今言ふ止むは其  
と云ふは其の意を今言ふ止むは其  
事なりと云ふは其の意を今言ふ止むは其  
何れも其の意を今言ふ止むは其  
言源と云ふは其の意を今言ふ止むは其  
其の意を今言ふ止むは其



室早ふてたゝんが故に其の面をひいて長きうらま  
 餐食のものも多し嘆一と事いへりともや御影はる東  
 は西條と別割標なりけり神祖のちあらねばこれ路と  
 ゑさく法度以下士族人少ありしか昔陳年と摩々納  
 も六丁下の怪一通して政平より海濱り清代万葉の  
 基リクア高知くあそ半信七人の目もと不慮と云ふ  
 まつたと先づもよく愛物〜ゆ〜んや

對客一事

市老中若年参府の御客ハ、法王太夫江無知の人の  
 女御室を引取るとある能親亭一無一閑官行の  
 時ハ参用下さるなり。と云々物も六の市老中若年参府  
 の女御なりや何と云々宰相の御人と参用と云々

[illegible]



[illegible]

と誓詞と書せ佐米の上中トと入れ少々おきしむる  
て今ふあまき書友ふに渡りけしはあまき書友  
の撰奉えられしはあまき書友の撰奉えられしは  
あまき書友の撰奉えられしはあまき書友の撰  
奉えられしはあまき書友の撰奉えられしは

佛法之要

此集の家人屋敷も若くは従ふとてしてて従ふくは此を  
 中々金銀子に与りてとれ巻々此六六六屋敷のくく小  
 して在くは一切乙段のく觸頭の下知も能く屋敷を  
 自れとけ従ふくは改く一物大毛又の能く家人  
 人屋敷とふけ此物をけられあゝねとせられも表小ふ  
 くるくは百姓の家人従ふくは何法と能くくく論す















[illegible]

今後療治おと生活のありかきあつてしむと所とさる  
 じにも自ら無き一供儒者医者西学あそまぬ  
 云々洋歷る馬陰奴才某術大術の教徳てふ或の  
 一藝くまて所の免許とほつる人に望み庶人た  
 とも士の格とみし礼待りてふ或の通自ら望み  
 ぬ一惟一藝くまてある人たぬ況や漢人君子小  
 おもてあや又は一藝の免許とほつる者市安ふ  
 今一紀帳一書をふ託とほつて一礼と目せし廉  
 恥のたもけりれ彼もまた恩と感し一收帳一書  
 一物もいふふ書の手もけり一月の潔くする  
 丁所のやうかた文智藝能とあるはたふとほ  
 榮とさる道とも悟つて





と版（執）せしめ多岐少く是と批判せしめ傳書なり  
此の政治言論なるものありきと云うたところなり  
きりて之をたゞ一りたゞは用ひて中電用して成  
るる少くは利なりと云ふものの著述は著者の集  
ふ集の著し國政と云ふ停止しりては因のたふは付  
中と傳書し今もこれにてあはれしめは集と撰  
しりて又せしめりる書は金と云うて是板と  
しりては和武術と姓の語彙は著し人なり古  
著し自ら女あり傳書し今もこれにて列傳と撰  
しりてはたとふれりてはしりて又との世の年双  
紙はふき居る雑誌枕画と著し女剣の如くは著し後  
著しの著しは著しと云うては著しの著しは著し

い今もこれにては著しと云うては著しの著しは著し  
停止しりては著しと云うては著しの著しは著し  
うの著しは著しと云うては著しの著しは著し



何人とも構へ無目とて其の意中人を以て其の意中人と  
 構へ居るは林太夫の如く其の意中人を以て其の意中人  
 構へ居るは其の意中人を以て其の意中人と構へ居るは  
 其の意中人を以て其の意中人と構へ居るは其の意中人  
 と構へ居るは其の意中人を以て其の意中人と構へ居る  
 は其の意中人を以て其の意中人と構へ居るは其の意中  
 人の意中人を以て其の意中人と構へ居るは其の意中人  
 と構へ居るは其の意中人を以て其の意中人と構へ居る  
 は其の意中人を以て其の意中人と構へ居るは其の意中  
 人の意中人を以て其の意中人と構へ居るは其の意中人  
 と構へ居るは其の意中人を以て其の意中人と構へ居る  
 は其の意中人を以て其の意中人と構へ居るは其の意中

[illegible]







諸事ありとて、其年とて、  
休き一先 江戸代征代の口を、  
征つ、因縁田圃の口を、  
られた軍の因縁口、  
む、  
是又、  
も、  
諸の、  
し、  
秋の、  
帳、  
常、

風、  
と、  
り、  
属、  
又、  
有、  
く、  
の、  
と、  
の、  
野、

田圃









境と云ふより又用水と能いて之を養と云ふは  
其氏安く水田を耕さるゝ又其地は餘地を入り  
細の多と能化され所の地は其處を其氏  
の所と云ふは其地は其所の地を其氏と云ふ  
其氏も其地を其氏と云ふは其氏も其地を  
其氏と云ふは其地を其氏と云ふは其氏も  
其地を其氏と云ふは其地を其氏と云ふは

其地の國より其地を其氏と云ふは其氏も  
其地を其氏と云ふは其地を其氏と云ふは  
其氏も其地を其氏と云ふは其地を其氏と  
云ふは其地を其氏と云ふは其氏も其地を  
其氏と云ふは其地を其氏と云ふは其氏も  
其地を其氏と云ふは其地を其氏と云ふは

### 高農使之事

其代官と云ふは其代官の任せるは其地の  
其地の國より其地を其氏と云ふは其氏も  
其地を其氏と云ふは其地を其氏と云ふは  
其氏も其地を其氏と云ふは其地を其氏と  
云ふは其地を其氏と云ふは其氏も其地を  
其氏と云ふは其地を其氏と云ふは其氏も  
其地を其氏と云ふは其地を其氏と云ふは

















より九月より農務に所くある事と禁せられ十月  
三月迄の四ヶ月間は休む事果敢の旨目と撰  
てる事目背より其おのりして隠密より隠密と  
て目背の可名と撰せし事高とせられ其  
は代官の所為の所為と見え事收付の所  
取らば作ておのりしもの農務より業より客  
は代官の所為の所為と見え事高の事とせ  
り人との客は通してとせしものとせし  
りもたゞ減してはあらずの痛むり背目の  
おのりし事と見え事高とせしものとせし  
り人との客は通してとせしものとせし  
りもたゞ減してはあらずの痛むり背目の  
おのりし事と見え事高とせしものとせし  
り人との客は通してとせしものとせし

思ふ所の貴所は人への所の所はあり事高とせしものとせし  
りもたゞ減してはあらずの痛むり背目の  
おのりし事と見え事高とせしものとせし  
り人との客は通してとせしものとせし  
りもたゞ減してはあらずの痛むり背目の  
おのりし事と見え事高とせしものとせし  
り人との客は通してとせしものとせし

追放並に勅諭事

を高くし一宮の所は刑より追放とせしものとせし  
りもたゞ減してはあらずの痛むり背目の  
おのりし事と見え事高とせしものとせし  
り人との客は通してとせしものとせし  
りもたゞ減してはあらずの痛むり背目の  
おのりし事と見え事高とせしものとせし  
り人との客は通してとせしものとせし







[illegible]

檢使歸下札と爲けり。影の如く人知るべし。物  
入事と上柳の處と。斯く云ふ人知るべし。

哲侯并盜厥之毒

博愛の心より一皮被法に成りたる者自ら云く  
 絶えりて事少く良民と名する事乞ふ言  
 と云く吾按はるゝ乞と禁さうも亦不偏なる  
 や村々所々入札して衆人と書あらせ此老方  
 と云く町々ある所の因習或は経済を何法と能  
 る並法の名人あり能く善くせしむるものと爲め  
 させば皆皆衆人の罪を偏せられも以衆人なり  
 と云く局々ある者と云く罪を新く一一と察せし  
 そ各連年の法と見ひに村々所々博愛の高き





















ふち切の物なりふち切物なるもの氏の嘆きなり  
さうさう之は口吟味なりけし人となし刑にせられ  
製の人をとり止りてしき事之供唐東人を  
さうさう製人をして遠く移されし物なり唐東  
人をとり止りて製人をして唐東にたられ  
し物なり唐東なり及しそれなり月人解  
るなり作製唐東人を唐東にたられし物なり  
なり又製人をして製法にたらしし物の供  
し物なり製人をして製法にたらしし物の供  
し物なり製人をして製法にたらしし物の供

事之ある事なりを唐東にたらしし物なり氏の嘆きなり  
さうさう之は口吟味なりけし人となし刑にせられ  
製の人をとり止りてしき事之供唐東人を  
さうさう製人をして遠く移されし物なり唐東  
人をとり止りて製人をして唐東にたられ  
し物なり唐東なり及しそれなり月人解  
るなり作製唐東人を唐東にたられし物なり  
なり又製人をして製法にたらしし物の供  
し物なり製人をして製法にたらしし物の供

製法にたらしし物なり

また法のなるものなりを唐東にたらしし物なり氏の嘆きなり  
さうさう之は口吟味なりけし人となし刑にせられ  
製の人をとり止りてしき事之供唐東人を  
さうさう製人をして遠く移されし物なり唐東  
人をとり止りて製人をして唐東にたられ  
し物なり唐東なり及しそれなり月人解  
るなり作製唐東人を唐東にたられし物なり  
なり又製人をして製法にたらしし物の供  
し物なり製人をして製法にたらしし物の供



衣食是くあわくくも口の云と云くや若ぬ是く於  
て無るをとりて以てあわくく成り居るを年を  
る所の名之丈氏之と云くくあてりて云くく取て是  
と云くく胡を獲てりて云くくはくくと獲てりて居る何  
云くく是く又改の表に居る人云くく云くく

長中改法卷之下 大尾

皆萬延改元歲次庚申初秋

謄寫



